

スピーカー・パネリスト

平田 直 | 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

関谷 直也 | 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

岩田 孝仁 | 静岡大学防災総合センター長・教授

外岡 達朗 | 静岡県危機管理監

田宮 健 | 静岡広野病院長

池谷 千尋 | 池ちゃん家・ドリームケア代表取締役

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

ワークショップ

地震予測の現状と 防災情報を生かすには

日時

2018.2.2 金 13:00-16:30
開場：12:30

参加料 無料（要事前申込）

[定員 200 名]

会場

しずぎんホールユーフォニア

〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町 1 番 13 号アゴラ静岡 8 階
（静岡銀行呉服町支店ビル）

※会場への詳しいアクセス方法は、ウェブサイトをご覧ください。

（<http://www.agora-sgs.jp/euphonia>）

※公共交通機関をご利用ください。

主催 | 静岡県立大学グローバル地域センター

共催 | 静岡県 静岡大学防災総合センター 東海大学海洋研究所 静岡新聞社・静岡放送（順不同）

お問合せ先 | 静岡県立大学グローバル地域センター 〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠 3-6-1

もくせい会館 2 階 <http://global-center.jp>

TEL 054-245-5600 FAX 054-245-5603 Eメール：glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

甚大な被害を及ぼした 1944 年の東南海地震、1946 年の南海地震から 70 年余、東海地震が未だ発生ししておらず、南海トラフ全体での大規模地震に、世間の関心は高まっています。

このような中、防災の動きとしては、2017年11月より東海地震の警戒宣言発令が凍結され、現在の科学的知見に基づく、南海トラフ地震に関する情報が新たに出来ることになりました。この情報をもとに防災対応を再考する必要があります。

また研究については、深部低周波微動に代表される新しい現象が発見され、またプレート運動のゆらぎ等も計測できる様になり、地震現象の理解が大きく進みました。特に、南海トラフで発生する地震の震源域の

広がりや再来周期に多様性があることが判明しました。さらに、大規模地震につながるおそれのある異常な現象がケースごとに整理でき、一部のケースでは、通常より地震の発生の可能性が高まっている等の評価もできるようになりつつあります。

ただし、こうした科学的知見は、日常生活に馴染まない為、現状のまま情報として受けても対応にばらつきが生じる可能性があります。地震予測の現状をしっかりと理解し、防災情報として最大限に生かす検討が必要です。

そこで、ワークショップ「地震予測の現状と防災情報を生かすには」を開催します。南海トラフ地震に直面する我々が、防災情報に基づく対応の方向性について共有認識を図り、共に防災力強化を目指しましょう。

プログラム

13:00

挨拶

趣旨説明

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

第 1 部

地震予測の現状

特別講演 1

平田 直 | 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

特別講演 2

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

特別講演 3

関谷 直也 | 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

第 2 部

防災情報を生かすには

特別講演 4

岩田 孝仁 | 静岡大学防災総合センター長・教授

パネルディスカッション

パネリスト

平田 直 | 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

関谷 直也 | 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

岩田 孝仁 | 静岡大学防災総合センター長・教授

外岡 達朗 | 静岡県危機管理監

田宮 健 | 静岡広野病院長

池谷 千尋 | 池ちゃん家・ドリームケア代表取締役

コーディネーター

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

16:25

終わりに

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

プロフィール

(敬称略 五十音順)

池谷 千尋
池ちゃん家・ドリームケア代表取締役。全国訪問ボランティアナースの会「キャンパス」メンバーとして、東日本大震災の被災地支援を経験。高齢者を対象にデイサービスや小規模多機能ホームなどを展開しつつも、利用者・社員の命を守ることをモットーとして、防災環境作りを進める。

岩田 孝仁
静岡大学防災総合センター長・教授。南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループメンバー、南海トラフの地震観測に基づく新たな防災対応中部検討会メンバー、日本災害情報学会理事などを務める。元静岡県危機管理監。

関谷 直也
東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授。静岡大学防災総合センター客員准教授。自然災害、原子力災害などにおける災害時の心理、災害時の情報伝達などを社会心理学の視点から研究する新進気鋭の若手研究者。

田宮 健
静岡広野病院長。地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護の療養型病院の役割に加えて、地域の防災拠点の役割を担うべく、地域住民と連携しながら、津波避難ビルとして病院を活用する。

外岡 達朗
静岡県危機管理監。南海トラフの地震観測に基づく新たな防災対応中部検討会メンバーなどを務める。「命」を守る危機管理を県政の重要課題の第一に掲げて、静岡県民の安全・安心を確保し地域防災力の充実を図る。

長尾 年恭
東海大学海洋研究所長・教授。同研究所地震予知・火山津波研究部門長を兼務。日本地震予知学会理事・副会長、レジリエンスジャパン推進協議会理事、南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会メンバーなどを務める。

楠城 一嘉
静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授。静岡大学防災総合センター客員准教授。静岡県石油コンビナート等防災アセスメント調査技術検討会メンバーなどを歴任。

平田 直
東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授。地震調査研究推進本部地震調査委員会委員長、地震防災対策強化地域判定会長兼南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会会長、南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ主査などを務める。

グローバル地域センター | 地震予測の現状と防災情報を生かすには(2月2日) | 参加申込書

下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、**1月29日(月)**までに、FAXまたは郵送にて「グローバル地域センター」までお送りください。ホームページからもお申込みいただけます。なお、定員となり次第、締め切ります。

FAX・郵送先

〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館 2 階 静岡県立大学グローバル地域センター
TEL:054-245-5600 **FAX:054-245-5603**
http://global-center.jp Eメール:glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

フリガナ			
氏 名			
会社・団体名			
参加確認書* の送付先	〒	TEL:	FAX:
	ご勤務先 ・ ご自宅 ○をお付けください		
Eメールアドレス			

※順次、参加確認書(はがき)をお送りしますので、ご住所を忘れずにご記入ください。ご記入いただきました個人情報につきましては、静岡県立大学が開催する講演会のご案内にのみ使用いたします。